

R

RIVIERA

リビエラライフのためのマガジン



NO.

21

WINTER 2023

FEATURES

4 RIVIERA INTERVIEW VOL.19

法華宗大本山「光長寺」貫首

原井 日鳳 猯下

REGULARS

2 歴史をつなぎ 地域と人をつなぐ

株式会社リビエラ

代表取締役会長兼社長 渡邊 昇

10 RIVIERA Sustainability Project

「第3回 LOVE OCEAN」～第7回リビエラSDGsフェス～

- リビエラ湘南ビーチクリーン
- 海のシンポジウム
- 「環境×防災」海上防災訓練

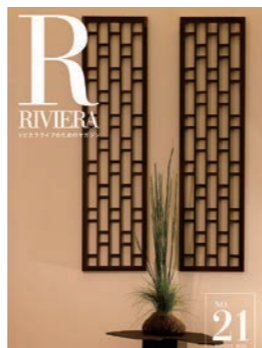
15 リビエラが提唱する「ブルーカーボンベルト構想」

～豊かな相模湾のために～

18 Pick Up

RACE EVENT

16 ヨットレースでも環境配慮
クリーンレガッタへのお誘い



表紙：茶寮リビエラの庭

発行
株式会社リビエラ
編集・制作
リビエラマガジン編集部

〒107-0062
東京都港区南青山3-3-3
リビエラ南青山ビル
TEL. 03-5474-8120
www.riviera.co.jp

広告のお問合せ先
リビエラマガジン編集部
TEL. 03-5474-8120

CHIEF EDITOR
渡邊 華子

EDITOR
内村 朱希
石井 小百合

WRITER
丸山 けんおう (P2、P4～8)

※本誌に掲載している情報、日程、営業日、営業時間、料金などは予告なく変更される場合がございます。最新情報は各ページに記載されていますwebサイトをご覧ください。

歴史をつなぎ
地域と人をつなぐ

株式会社リビエラ
代表取締役会長兼社長
渡邊 昇



冬の魅力
富士山を望む故郷への想い

水の透明度が上がリ、澄み渡る高い空に富士山が浮かび上がるこの時季、冷たい空気が思考回路を鮮明にしてくれる冬の相模湾が、私は大好きです。先日、日の出を海から見る機会がありました。東の空から穏やかな薄黄の光が漏れ始め、冠雪した富士が薄紅色に染まるわずか10分ほどのスペシャルな時間を味わいました。

富士山に対して、私は格別な想いがあります。私の故郷・河口湖から見る富士山もまた格別。

私は高校卒業まで、裾野から見上げる富士山が生活の一部でした。飛行機から見える富士山に、「帰ってきたな」と心の故郷に想いを馳せたものです。一年

の半分を海外で過ごしていたコロナ前が既に懐かしく感じられるこの頃です。

湘南港の指定管理
相模湾の魅力を広げる

さて、この4月から湘南港の管理業務が始まります。

湘南のシンボルであり、2度の五輪大会の舞台となったオリリンピックレガシー「江の島」は、世界のヨットマンにとって、まさに日本の玄関口。

リビエラ逗子マリーナ、リビエラシーボニアマリーナを所有する私たちは、これまでも、点でなく、相模湾を「面」で捉えたマリーナ運営を行ってきました。この度、相模湾の中央部に位置する江の島のハーバー「湘南港」を、神奈川県から指名を受け、リビエラが運営を

担わせていただくこととなりました。沿岸の連携をさらに深め、相模湾の魅力を存分に活かした活性化に拍車がかかるよう、尽力していく所存です。

昨年11月12日には、神奈川県沿岸全域13市町の各首長にもご賛同いただき、「第3回LOVE OCEAN」の開催ができました。また、「湘南ブルーカーボン」プロジェクトの第一弾として、日本初となるマリーナ内での藻場再生が始動。脱炭素に貢献するこの活動を、ベルト状につなげていこうとするのが「ブルーカーボンベルト構想」です。愛媛県での太陽光発電のグリーンカーボンと合わせて、脱炭素社会実現のために貢献していきます。

神奈川県とは、相模湾の豊かさを守るための連携協定も締結しました。

3倍の応募に期待!!
サステナブルムーブメント

2月開催の「リビエラSDGs作品マンガ大賞展覧会」も、今回で3度目。北海道から沖縄までの35都道府県から応募総数1446点。これは前回の3倍を超える数です。作品をお寄せ

くださったのは、未来への思いの丈を熱く表現した5歳〜84歳のみなさま。授賞式には、神奈川県黒岩知事をはじめ、各自治体の首長もプレゼンターとして参加されます。

地域を越え、世代を越えたサステナブルムーブメントへの共感の輪が着実に広がっています。それを目の当たりにできることは嬉しい限りです。

池袋の地で94年
歴史を紡ぎ進化する

73年目を迎えるリビエラ東京（西池袋）の前身・料亭「白雲閣」の創業者である堀江浅蔵・マチ夫妻が福島から上京し、都内有数までに成長した薪炭問屋を1929年に創業するのに選んだのは池袋4丁目。私たちは長きに亘り、この愛着深き池袋の地域社会の一員であり続けてきました。また、東京城西北地域のお客様に愛され、古き良きモノを大切にし、歴史を刻んできました。

お客様と共に歴史を紡ぎ、そして進化していくリビエラのイズムは、池袋だけではなく、逗子・三浦をはじめロスも上海も同じ気持ちで、歩みを進めています。

法華宗大本山「光長寺」貫首
原井日鳳 猯下 Harai Nippou



地球環境は待ったなし。
`皆、で取り組めば`蘇生、できる。

インタビュー：渡邊華子

今回のゲストは、日本仏教界のトップリーダーのおひとり。法華宗(本門流)第138代管長・第79代光長寺貫首の原井日鳳猯下です。由緒あるお寺に生まれながら、商船会社で営業を経験。仏門に入り、現在は環境保全や被災地支援にも取り組むなどバイタリティあふれる御前様。実はRIVIERAとも深い縁で結ばれている猯下に、たっぷり語っていただきました。



Profile
原井日鳳
Harai Nippou

はらいにつぼう：自坊は沼津・青野山妙泉寺。1944年11月21日生。早稲田大学卒。東京船舶株式会社勤務を経て、1972年より妙泉寺住職。2018年より第79代光長寺貫首就任、現在に至る。(1997～2001年・2005～2009年 宗務総長。2019～2021年 法華宗第138代管長。2020～2022年第34期全日本仏教会副会長。)

木を切ることは
`発展`なのか?

——御前様は、宗門全体を束ねるお立場、また由緒あるお寺のご住職を務めるのと並行して、長年、環境問題にも取り組まれています。

日鳳 「光長寺」は、法華宗の四大本山の一つで、静岡県沼津市で宗祖直伝の750年に及ぶ歴史があります。そして、私の自坊「妙泉寺」も沼津市で緑に囲まれた土地柄。そういう場所で、`開発`、`経済発展`という、まず木を切り、建物を建てることから話が始まるわけです。

木は目の前にたくさんあるから、気軽に利用したくなります。大きく育った木は材木にしか見

えなくなるし、逆に、野放図に生い茂った葉は、畑に日陰を作る農業生産の邪魔者。

しかし、1時間程で切り倒してしまう大木は、そこで育つには100年単位の年月がかかります。

開発とは、人間が自然に介入する行為です。私たちは、それを`発展`と捉えて、`破壊`の側面には長く目をつぶってきました。その結果、日本は昨年のCOP27でも、国際的にも不名誉な「化石賞」*を与えられてしまった。この不名誉賞は3年連続。国際社会は「もう待ったなし」と日本に厳しい目を向けているのです。

私たちは破壊を止めるために、開発の意味を見直す勇気を持たなければなりません。手遅れになる時期は、すぐそこまで来ています。

民間企業での経験
`俗世`を見てきたことが財産

——御前様は、環境保全に関する講演会や各種シンポジウムでも、積極的にご発言です。

日鳳 そうなんです、40年近くやってきて、最近少し違った思いもあります。会場に呼ばれてお話をすると、その場では手応えが

あるのです。「素晴らしいお話を聞いた」「いい講演だった」と言っていた。でも、その後が続きません。そうだと思ってくださった人々には、そこで終わるのではなく、ただちに行動してもらいたいと切に願っています。

——辛辣なお言葉ですが、それはやはり、民間企業での勤務経験を持つご経歴と関係ありますか?

日鳳 そうかもしれませんね。私は寺の子ですが、家父長制が残る時代の次男。家を継ぐ立場ではなかった私は、仏門とは異なる世界で生きたいと志して、早大では商学部に進みました。アメリカの海運政策を研究テーマに合理的なモノの考え方と実践の在り方を学び、志願して商船会社に就職しました。

貿易が盛んな当時のこと、営業マンとして土日もなく働いたものです。そんな矢先、祖父と父が相次いで倒れ、世を去ったのです。

すると教員になっていた兄が、大阪で勤務していた私を訪ねてきて「寺で育った者として、このまま見過すことはできない。僧侶に向いているのはお前のほうだ。寺を継げ」と言い出した。驚天動地、数週



会社勤め時代

間悩みに悩みましたが、このままではいけないと方向転換することを決心。30歳手前で法華宗宗学林という僧侶の学校に入り直しました。

一般的な寺の跡継ぎは、中学校を出ると、ストリートに僧侶の学校に進み、仏道修行を始めるものです。実社会に出たことのある私は「こいつは俗世にまみれたヤツだから」と他の人より厳しく指導されたのは事実です。でも、仏門だけではない幅広い世の中：厳しい世間を見てきた経験が、私の財産になっていることも、また事実ですね。

*「化石賞」とは、気候変動対策に対して足を引っ張った国に与えられる賞



幼少期

——商船会社では多くの外国船と関わられたと伺っています。異なる国の人々との関係で培われたグローバルな視点が、現在の環境問題への取り組みにもつながっているのでしょうか？

日鳳 「環境」と一口に言っても、捉え方は各国それぞれ、また、人それぞれ。一人一人、考えていることは違います。世界と接する仕事に就いた経験で、それぞれの考え方の背景までも含めて配慮することが身についたと思っています。それが、環境問題に目が向いた根底かもしれませんね。

世界、特に欧州は環境に対して



光長寺

先進的かつ用意周到です。

その意味で、欧州に根付いた環境認証であり、最も厳しいといわれる世界最古の国際環境認証「ブルーフラッグ」を、日本企業が取得するのは遠い先だと思っていました。

——御前様は、以前からブルーフラッグをご存じだったのですか？

日鳳 もちろんです。いわゆるSDGsウォッシュも多量の中、地に足のついた実践で日本のSDGsムーブメントを先導するリビエラの取り組みに、私はかねて興味を持っていました。

そんな折、リビエラ逗子マリナーのブルーフラッグ取得をニュースで知り、心底感動したのです。リビエラの意識と行動力、企業としての真剣さを確認しました。

——私たちリビエラがサステナビリティを重んじるのは必然です。

以前お越しいただいた池袋のリビエラ東京は、料亭「白雲閣」開業から73周年ですが、1980年ごろから、料亭らしく食を通じた地方創成に取り組んできました。

また、マリナー事業を開始した2001年には、気候変動への危機感から環境保全活動も

スタート。

そして、2006年からは、環境・教育・健康医療を3本柱とする「リビエラ未来づくりプロジェクト」を立ち上げています。

日鳳 私も同ような頃から環境保全活動を始めました。民間企業から仏門に入り、高度経済成長期の真っ只中で住職を継いだとき、

これではまずいと「緑と歴史を守る会」を立ち上げて、地域の自然や歴史を守っていくという運動を始めました。そして、1974年の「七夕豪雨」で崩壊した本堂と庫裏を8年がかりで再建したのに併せ、「妙泉寺宝物資料館」をつくり、

歴史資料の保存と展示、そして「森の緑」を後世に伝える活動に取り組んできました。

人の命を守りたい だから問題に取り組む

日鳳 2050年には海の中のプラスチックごみの重量が魚の重量を超える試算されています。マイクロプラスチックの問題や、体内にプラスチックが入った魚を食べる人間への影響の他、頻発する異常気象の原因ともいわれる地球温暖化の背景にもプラスチックが

存在しています。

レジ袋の使用を控えようと盛んにいわれていますが、日本人のプラスチック廃棄量は世界2位。一方、世界1位のアメリカでは、2030年までにリサイクル率50%を目標に定めたり、フランスでは2040年までにすべての使い捨てプラスチックをなくす目標が設けられ、2022年1月から全小売業で野菜と果物のプラスチックが禁止されています。

欧米では当たり前になった送電線の地下埋設も日本では進まず、EV(電気自動車)普及率も日本はわずか0.9%。54%のノルウェーとは大きな差があり、EUでは2035年までに完全EV化を宣言しています。

まずは日本として長期中期の指針を示し、それに向かって各企業が中期短期の目標を立て、技術革新等に向かうという、先を見据えた時間的な猶予が必要です。

このままでは環境破壊は後戻りできないレベルに進んでしまいます。最初に被害を受けるのは、虫や鳥、魚といった海や山の小さな生き物たちの命。私が環境問題に取り組んでいるのは、何よりも大切な人の命を守りたいからです。小

ことです。

法華経が説く「この世こそ浄土に」

日鳳 むろん、今を生きるには経済利益が必要ですが、個人主義で知られるフランスでも、著名な経済学者ジャック・アタリ氏が「利他」を説き、話題になりました。

これは法華経が説くところと相通じています。「諸法実相」——世の中のあらゆるものは、すべてがお互いに影響を与え合って存在している。自分という存在すら、互い



名取市のモニュメント「蘇生」

さい命が消えていく地球では、環境破壊が、いつか人間の生命を脅かすこととなります。

経済事情があつて難しいからと手をこまねいている場合ではありません。大胆なイノベーションに向けて、皆で知恵を絞りたいです。

——美しく豊かな海を守る「LOVE OCEAN」では知恵を出し合い、手を携え、協力していきたいと、海を愛する多くの人とコミュニティを広げています。

日鳳 「リビエラSDGs作品マングラ大賞展覧会」や「LOVE OCEAN」など、掛け声だけに終わらず、人を実際の行動に導く実行力と勢いには拍手を送りたい。そして、日々の活動を長年継続されていることにも。

このごろでは、近海の藻場再生も考えられているとか？

——魚が卵を生み育て棲み処となる「藻場」が温暖化の影響でなくなり、「磯焼け」が急速に進んでいます。脱炭素社会の実現を果たす上でも藻場再生が急務。その課題に対してリビエラが提唱しているのが「ブルーカーボンベルト構想」です。

海には境目がないのだから、各地が単独で対策するのではなく、皆が手を組んでベルト状につなげていこうという発想で、まずは相模湾一帯に広がっていくため、2022年11月に、日本で初めてマリナー内での藻場再生を開始しました。

日本は海に囲まれた島国。この相模湾モデルが横展開されれば、日本の沿岸すべてがブルーカーボンベルトに包まれて、遠からず豊かさを取り戻すはずですよ。

環境を守るとは 地球を蘇らせること

日鳳 「共生」という聞き心地の良い言葉がありますが、私は、それはいかなるものかと思っっているのです。

——近年「共生社会」という文字をあらゆるところで見かけるようになりました。

日鳳 環境や生命を脅かしかねないテクノロジーの産物と、共に生きることでできません。化石燃料とも原発廃棄物とも、この先長く共にあるべきではないでしょう。いろんな理由をつけて良くないものと共生しては、今はなんとかなっても、その先は共生が続き

ません。小さな命に影響が出てきた今ももう「共生」という生ぬるい段階ではなく、一歩も二歩も踏み込んだ「蘇生」にシフトチェンジする勇氣を持たなければ。

——『蘇生』と名付けられたモニュメントにも関わられています。

日鳳 東日本大震災の直後、私は、東北各地、特に宮城県の名取市を慰霊で行脚し、衝撃的な光景を目の当たりにしました。名取市は、閑上地区をはじめとして壊滅的な被害を受けた街です。友人の八木麟太郎さんという彫刻家に、慰霊のモニュメントづくりへの協力を求めました。昨年9月末に10年がかりで完成したのですが、その作品タイトルが『蘇生』。

亡くなった人を弔うだけでなく、未来に向けて「人の心も環境も蘇らせたい」との願いが込められています。

環境を守るとは、すなわち地球を蘇らせることです。そのために、まず人の心を蘇らせる。地球を蘇らせたいと願う心の持ち主が増えて、初めて自然環境が改善の方向に動きだす。「共生」ではなく「蘇生」とは、そういう

私たちの未来・地球のために

第3回リビエラ

SDGs

作品・マンガ大賞 展覧会

来場して投票しよう！「オーディエンス賞」決定！

応募総数1,446点がつづる、未来への思い

2023 **2.4 SAT** >>> **2.26 SUN** 平日11:00~15:00 土日祝11:00~17:00
日時指定登録制

会場 **リビエラ逗子マリーナ** 逗子市小坪5-23-9
JR鎌倉駅・逗子駅・京浜急行逗子・葉山駅よりタクシー約9分、バス約12分 / 詳しいアクセスはHPをご確認ください

入場料	一般 1,000円	出展者 無料 ※招待状提示	小学生以下 無料	中・高校生 500円 ※学生証提示	募金で、子どもの未来や地球へアクション！ 応援の声も届けよう。
-----	--------------	---------------------	-------------	-------------------------	------------------------------------

日時指定登録制 [平日承認制]・当日支払

※価格はすべて税込です。※ご来場前に必ず「日時指定登録」を行ってください。※入場料は当日、受付窓口でお支払いください。※障がい者手帳をお持ちの方とその付添の方(1名まで)は500円となります。※平日は先約の都合上、ご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。※混雑回避のため、前日までの日時指定登録をお願いいたします。登録なしでご来場の場合は、登録までにお時間をいただきます。※日時指定登録方法の詳細はQRコードより展覧会HPをご確認ください。

主催：リビエラSDGsアクション実行委員会
共催：NPO法人リビエラ未来づくりプロジェクト / 株式会社リビエラリゾート / 株式会社リビエラ東京
協賛：アサヒビール株式会社 協力：株式会社アディスマユーズ
後援：神奈川県 / 横浜市 / 豊島区 / 逗子市 / 三浦市 / 横須賀市 / 葉山町 / 鎌倉市 / 藤沢市 / 平塚市
神奈川県教育委員会 / 横浜市教育委員会 / 豊島区教育委員会 / 逗子市教育委員会 / 三浦市教育委員会 / 横須賀市教育委員会
葉山町教育委員会 / 鎌倉市教育委員会 / 藤沢市教育委員会 / 平塚市教育委員会
東京都私立初等学校協会 / 神奈川県私立小学校協会 / 一般財団法人神奈川県私立中等高等学校協会

お問い合わせ **リビエラSDGsアクション実行委員会**
info-sdgs@riviera.co.jp

リビエラ未来づくりプロジェクト
https://www.riviera.co.jp/sustainability/
リビエラグループは「リビエラ未来づくりプロジェクト」を2006年に立ち上げサステナブルな取り組みに力を注いでいます



国の有形文化財に登録されている「光長寺御宝蔵」

の関係の中で「生かされている存在」であると感じます。また、「**娑婆即寂光**」—つらいこの世を美しい住処に転換するのだとも説いています。一人一人が懸命に生き、そういう人々が地面から湧き出るように「皆で手を携え」れば、この今の世界を浄土にしていけるということ。——自分だけでなく皆で、という点が大切なんです。

御前様が貫首を務めておられる光長寺と、リビエラは深い縁で結ばれています。日鳳 光長寺には、長い歴史の中で多数の貴重な文化財が所蔵されてきました。鎌倉時代の弘安元年(1278年)、28枚の紙を継いで、往時、藤太夫に与えられた日蓮大聖人直筆の「二十八紙大曼茶羅」もお預かりしています。数多の難を乗り越え現存する貴重な御本尊です。「**優婆塞藤太夫日長**に授く」と記されており、この日長こと藤太夫という**優婆塞**(在家の男性信者)が、リビエラの渡邊家のご先祖。大曼茶羅のお護り役は、今

日まで渡邊家に代々受け継がれています。——「二十八紙大曼茶羅のお里帰り」に花を添えるお稚児さんを、私も経験しました。日鳳 文安三年(1446年)に「二十八紙大曼茶羅」を光長寺がお預かりした際に「差渡置添書之事」を交わして以来、その約定を守り続け歴史をつないでいます。約20年に一度行う「二十八紙大曼茶羅の河口湖へのお里帰り」について、『妙法寺記』には厳重な警護で多数の兵馬や人々が割り当てられた様子が記されています。前回のお里帰りは、2000年5月でした。日蓮大聖人直弟子の高僧でも授与された例がない巨大なお曼茶羅(縦390・2cm×横247・6cm、宗祖御真蹟の御本尊で最大の大きさ)を、優婆塞である藤太夫さんが授けられたことの意味は格別。この人の名前を分析すると、聖人のご真意がわかるような気がします。藤太夫の「藤」は「藤原氏一族(日野流)」の意で、「太夫」は「五位の官位を有する一族の長」。つまり、大切な任務を果たすべき所



本堂へと続く回廊

日まで渡邊家に代々受け継がれています。——「二十八紙大曼茶羅のお里帰り」に花を添えるお稚児さんを、私も経験しました。日鳳 文安三年(1446年)に「二十八紙大曼茶羅」を光長寺がお預かりした際に「差渡置添書之事」を交わして以来、その約定を守り続け歴史をつないでいます。約20年に一度行う「二十八紙大曼茶羅の河口湖へのお里帰り」について、『妙法寺記』には厳重な警護で多数の兵馬や人々が割り当てられた様子が記されています。前回のお里帰りは、2000年5月でした。日蓮大聖人直弟子の高僧でも授与された例がない巨大なお曼茶羅(縦390・2cm×横247・6cm、宗祖御真蹟の御本尊で最大の大きさ)を、優婆塞である藤太夫さんが授けられたことの意味は格別。この人の名前を分析すると、聖人のご真意がわかるような気がします。藤太夫の「藤」は「藤原氏一族(日野流)」の意で、「太夫」は「五位の官位を有する一族の長」。つまり、大切な任務を果たすべき所

このお曼茶羅には「藤原一族の官位五位の長である藤太夫がリーダーとして一族や仲間たちの手本となり、皆で手を携えて頑張れ」とのメッセージが込められているのではないのでしょうか? ——ここにもまた「皆で」というキーワードが出てきました。750年という年月をかけて祖先が紡いできた歴史に想いを馳せると、未来に向けて今すべきことのイメージが広がります。大自然と共に生きる心豊かな未来のために、人の心を蘇らせ、皆で地球を蘇生するために——。

このお曼茶羅には「藤原一族の官位五位の長である藤太夫がリーダーとして一族や仲間たちの手本となり、皆で手を携えて頑張れ」とのメッセージが込められているのではないのでしょうか? ——ここにもまた「皆で」というキーワードが出てきました。750年という年月をかけて祖先が紡いできた歴史に想いを馳せると、未来に向けて今すべきことのイメージが広がります。大自然と共に生きる心豊かな未来のために、人の心を蘇らせ、皆で地球を蘇生するために——。

開催レポート

第7回リビエラSDGsフェス



梅沢海岸



大磯北浜海岸



湘南ベルマーレ
ひらつかビーチパーク



サザンビーチちがさき



片瀬西浜海岸



由比ガ浜



逗子海岸



森戸海岸



和田長浜海岸



小網代湾



御幸の浜



岩海岸



吉浜海岸

小田原

真鶴

湯河原

二宮

大磯

平塚

茅ヶ崎

藤沢

鎌倉

逗子

葉山

横須賀

三浦

海を愛する人と 美しく豊かな海を守る

『第3回 LOVE OCEAN』

リビエラ湘南ビーチクリーン&海のシンポジウム 2022/11/19-12/10

美しい海には人が集まる
広域な「海からの地域活性化」

美しく豊かな海を守り、人と人をつなぐ海洋環境イベント「第3回 LOVE OCEAN」を昨年11〜12月に開催。

有志社員が毎月継続する「リビエラビーチクリーン」の特別版として環境意識の高い湘南カルチャーを発信しよう！と、2021年に鎌倉・逗子・葉山の3市町で開催したのが始まりです。第2回は三浦・藤沢・横須賀を加えた6市町へ拡大、そして今回、第3回は三浦から湯河原まで神奈川県沿岸全域13市町まで拡大するとともに、内容も充実したイベントに成長。各市町の首長・地域住民・団体・漁業者・マリンスポーツ愛好家・釣り人・観光客など多岐にわたる方々が参加し、「海を愛する人のコミュニティ」の輪が広がっています。

三浦をスタートし、ゴールの湯河原まで100キロ以上に及ぶ相模湾沿岸を西へ西へとキャラバンしていくと、ゴミの種類や量、砂の形状や量が各海岸で全く異なります。それは、海岸の形や川の有無、潮流の流れなどの「地理的要因」や日々変わる風・波などの「気象要因」に加え、人々の関心の高さやアクションなどの「人的要因」に起因することを実感します。三浦から茅ヶ崎の東側はマイクロプラスチックが多く、平塚から湯河原の西側は生活ごみや発泡スチロールなどが収集されました。

海にも陸にも境目はなく繋がっているからこそ、単体の場所ではなく相模湾全体という広いエリアでの活動の必要性を感じています。多くの「海を愛する人」と知恵を出し合い、手を携えて協力し、この美しく豊かな海を守っていききたいと願い活動しています。

ビーチクリーンからの展開

JAMSTEC（海洋研究開発機構）の海ゴミ研究への貢献の他、ビーチクリーンのために海に来た方が町へ回遊し地域経済活性化につながる試みとして、鎌倉と小田原では「まちのコイン」を付与しました。



日本初！浜を活用した海上防災訓練(人や物資の輸配送)



環境×防災
海からの防災「浜から浜へ」

11月19〜26日に開催したLOVE OCEANの「リビエラ湘南ビーチクリーン」に合わせ、葉山〜逗子〜鎌倉〜藤沢では海上防災訓練を実施しました。これは、喫水のある船では港にしか着岸できませんが、リポーターや水上バイクを活用すべ

ば「海から浜に上陸し、物資や人の輸配送ができる」ことを確認し合う「浜から浜」をつないだ日本初の海上物資輸送訓練です。相模湾と山に囲まれたこの美しい地元は、度々が崩れ等の被害に見舞われます。地球温暖化による気候変動や異常気象など、環境に起因する甚大な自然災害が頻発する中、長期間停電や道路等崩壊・陸路遮断による孤立地域の発生などさまざまな被害が想定され、防災が何より重要です。海を生業にしているリビエラでは、「環境×防災」として海路は貴重なルートと考えています。

災害海上防災訓練「海から浜」海上保安部と協働

葉山と逗子での訓練では、リビエラが考える「LOVE OCEAN」のコンセプトに賛同くださった横須賀海上保安部と協働し、支援物資の海上輸送訓練を実施しました。海上の巡視艇「きぬがさ」↓リビエラのリポーター

シンポジウムで知る
海から考える未来

「第3回LOVE OCEAN」の締めくくりの12月10日、「海のシンポジウム」を開催。このシンポジウムでは、「美しい海には人が集まる」をコンセプトに、環境問題から水産や観光・スポーツ・レジャー・海の文化・金融まで、海に想いを馳せ、「海から考える未来」をテーマに肩ひじ張らずに語り合っています。

そして、登壇者も毎回多彩な顔触れですが、今回は神奈川県知事の黒岩祐治氏や海洋冒険家の白石康次郎氏をはじめ、オリンピックの小谷美可子さんが飛び入り登壇されるなど、海に馴染みのある有識者にご登壇いただきました。

海の実情を肌で感じている漁師さんから見た水温上昇による水産業・相模湾の現状や、磯焼けを解決するための藻場再生の急務について語られました。その方策や、リビエラ逗子マリーナ内で始まった日本初となるマリーナ内での藻

↓水上バイク↓浜へ。「3.11では、港の機能が損なわれ、船での出入りができなくなった。」「港だけではなく浜を使う。」「浜と浜を海上で繋ぐ」ことは今までにない発想！」と横須賀海上保安部長からも好評価。災害時に、海を活用して支援し合える体制づくりのための第一歩を踏み出せました。環境問題への課題解決となるビーチクリーン参加者と共に、海上防災訓練を繋げられたことは、大変意義のある取り組みでした。

リビエラが保有する船やリポートを使用し、陸路に代わる「海路」を確保することで、巡視艇だけでは対応が難しい浜にも海上から人や物資を輸配送できます。この訓練を実施することは、海を守る海上保安庁としても地域の安全に寄与する素晴らしい取り組みで、地域防災に非常に役立ち、かつ、官民が連携して行うもので、我々としても大変ありがたいものです。



海上保安庁 第三管区海上保安本部 横須賀海上保安部長 横須賀港長 池田 聡 氏

場再生プロジェクトについては研究者らの目線からも発信。日本の海の文化・ヨット文化は長年の課題ですが、セーラーから相模湾がいかに素晴らしいのかを聞き、海のロマンスを感じる時間になりました。「金融から見た海」という新たな切り口も加わり、充実したシンポジウムでした。

さまざまな角度から互いの考えを知り、新たな気付きを得られるこのシンポジウムは大変有意義なもので、登壇者や参加者からは、知恵を出し合い仲間になって協力し合うために、より幅広い方々に多く参加してほしいと感想が寄せられていました。そのためには、海に境目が無いように、性別を超え、年齢も立場も超えたシームレス(継ぎ目がない・途切れない)な方々との幅広いコミュニケーション、プラットフォームを作り、皆で進めていきたいと切に願っています。

次回「第4回LOVE OCEAN」は5〜6月。ヨットレースや海岸線を楽しむサイクリング、ランニングも企画

災害時の支援協力包括協定
逗子市と締結

シーズン中、小さなものを含めると毎週のように海のレスキュー要請に対応する中で、リビエラでは非常時への備えを常に意識しています。近隣保育園や各団体など地元との避難訓練を年4回以上実施。また、マリブホテルではEVを蓄電池としてロビーに放電させる、非常時にも配慮したシステムを導入しています。そしてこの度、2022年10月19日、災害時の包括協定を逗子市と締結いたしました。



マリブホテル
大規模停電時にはEVから電力を供給し、携帯充電等のライフラインを確保できる



「災害時における支援協力に関する包括協定」締結式
左)逗子市長 桐ヶ谷覚氏
右)株式会社リビエラリゾート 代表取締役社長 小林昭雄

しています。海を愛するみなさまと一緒に、美しく豊かな海を守り次世代に残していきたいよう、ご支援をお待ちしています。



サーファーも海からあがってビーチクリーン



ジュニアヨットクラブもみんなで参加



マイクロプラスチック探しを楽しむ親子



「湘南ブルーカーボン」プロジェクト
リビエラが提唱する
「ブルーカーボンベルト構想」
 ～豊かな相模湾のために～

一般社団法人ブルーカーボンベルト・リビエラ研究所

2001年のマリナー事業開始と同時に気候変動への危機感から環境保全活動を開始し、2006年より多岐にわたるサステナビリティに取り組んできたリビエラでは、海面浮遊物除去やビーチクリーンを日頃から実施すると共に、アマモの育成支援を行う等の海の生態系保護にも積極的に

藻場再生をベルト状に「ブルーカーボンベルト構想」

豊かな海を守るためには、藻場の再生も必須です。急速に進み、海の生態系への影響が問題視されています。そしてこれは、相模湾も同様。藻場の再生も必須です。

豊かな海に戻すための藻場再生
 LOVE OCEAN「海のシンポジウム」でも毎回話題に上がる通り、日本の海を取り巻く環境問題は海ゴミだけではなくありません。草木のない山に動物が棲めないのと同じで、魚が卵を産み育て、身を守る棲み処となる藻場が温暖化により減少する「磯焼け」が影響が問題視されています。そしてこれは、相模湾も同様。藻場の再生も必須です。

アジアで唯一のブルーフラッグを取得したサステナブルマリナー「リビエラ逗子マリーナ」では、2022年11月、日本で初めてマリーナ内での藻場再生に挑戦し始めました。これは「湘南ブルーカーボン」プロジェクトの第一弾で、諸磯湾で発見され神奈川県水産センター内で育成に成功した早熟カジメを活用。藻場再生により海でCO2を吸収（ブルーカーボン）し脱炭素に貢献することが出来ます。「ブルーカーボンベルト」をまずは相模湾全体で構築し、将来的には日本列島全体がブルーカーボンベルトに包まれた豊かな海になることを願っています。

取り組んできました。更に活動の幅を広げるため、この度、一般社団法人ブルーカーボンベルト・リビエラ研究所を設立しました。私たちは、藻場をベルト状に広げていく「ブルーカーボンベルト構想」を提唱しています。

藻場再生は脱炭素にも貢献 神奈川県と協定締結
 アジアで唯一のブルーフラッグを取得したサステナブルマリナー「リビエラ逗子マリーナ」では、2022年11月、日本で初めてマリーナ内での藻場再生に挑戦し始めました。これは「湘南ブルーカーボン」プロジェクトの第一弾で、諸磯湾で発見され神奈川県水産センター内で育成に成功した早熟カジメを活用。藻場再生により海でCO2を吸収（ブルーカーボン）し脱炭素に貢献することが出来ます。「ブルーカーボンベルト」をまずは相模湾全体で構築し、将来的には日本列島全体がブルーカーボンベルトに包まれた豊かな海になることを願っています。



ご挨拶 (オンライン)
 黒岩 祐治氏 (神奈川県知事)



漁師が語る相模湾の現状
 高橋 征人氏 (神奈川県漁業協同組合連合会 代表理事 会長)
 大竹 清司氏 (小坪漁業協同組合 代表理事 組合長)
 滝口 直之氏 (神奈川県水産技術センター 所長)



藻場再生「湘南ブルーカーボン」プロジェクト
 木下 淳司氏 (神奈川県水産技術センター 栽培推進部 主任研究員)
 今井 利為氏 (公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 専務理事 水産学博士)
 山崎 哲雄 (株式会社リビエラ/一般社団法人ブルーカーボンベルト・リビエラ研究所 理事)



セーラーが語る相模湾の魅力
 稲葉 健太氏 (SYLジャパン株式会社 代表取締役)



金融から見たSDGsと海
 足立 敏貴氏 (株式会社ユニオン証券アドバイザーズ 執行役員)



ブルーカーボンからブルーエコノミーへ
 渡邊 敦氏 (公益財団法人 笹川平和財団 海洋政策研究所 上席研究員)



世界中の海 (オンライン)
 白石 康次郎氏 (海洋冒険家/DMG MORI SAILING TEAM スキッパー)



スポーツを通じた自然と生きる喜び (飛び入り参加)
 小谷 実可子氏 (オリンピック)

[主催]リビエラSDGsアクション実行委員会
 [共催]NPO法人リビエラ未来創りプロジェクト、株式会社リビエラリゾート、株式会社リビエラ東京
 [協賛]アサヒビール株式会社、株式会社ウィンフィールドジャパン
 [後援]横須賀海上保安部/神奈川県/逗子市/三浦市/鎌倉市/葉山町/横須賀市/藤沢市/平塚市/茅ヶ崎市/大磯町/二宮町/小田原市/真鶴町/湯河原町/公益財団法人かながわ海岸美化財団/神奈川県漁業協同組合連合会/特定非営利活動法人神奈川県水産救済会/一般社団法人神奈川県ライフセービング協会

イベント 公式HP

第3回 LOVE OCEAN 動画



第3回 LOVE OCEAN報告 / ブルーカーボンベルト構想
 渡邊 華子 (NPO法人リビエラ未来創りプロジェクト 理事長/一般社団法人ブルーカーボンベルト・リビエラ研究所 代表理事/株式会社リビエラ東京 専務取締役)



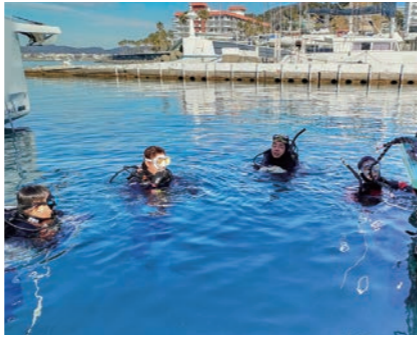
司会
 MITSUMI氏 (ラジオDJ)



本年1月24日、「相模湾の豊かさを守り脱炭素社会実現に向けた連携・協力に関する協定」を神奈川県と締結



日本初！マリーナ内で藻場再生にチャレンジ開始
 2022年11月「湘南ブルーカーボン」プロジェクト始動



「早熟カジメ」をマリーナ内に設置
 外海でも生育するかダイバーが定期観察



地産地消の再生可能エネルギーで地域と日本を照らしていく。
 そんな未来に共感いただける方々と、
 たくさんのご縁を結んでいただければ幸いです。

Winfield Japan Co., Ltd
 株式会社ウィンフィールドジャパン
 東京都中央区京橋2-12-2 NEWSXビル4F TEL:03-6263-0859

リビエラ主催レース&イベント 2023年間スケジュール

- 1月8日(日) 三浦新春親善レース
(Shonan Race同時開催)
小網代灯浮標付近スタート→秋谷沖マーク往復
 - 2月12日(日) Shonan Race
上下コース2レース(秋谷沖)
 - 3月12日(日) Shonan Race
秋谷沖スタート→南西沖ブイ往復
 - 4月9日(日) Shonan Race
上下コース2レース(秋谷沖)
 - 5月21日(日) キスマスター2023
 - 5月14日(日) Shonan Race
秋谷沖スタート→城ヶ島沖マーク往復
 - 6月11日(日) LOVE OCEAN Clean Rregatta 2023
(Shonan Race同時開催)
上下コース2レース(秋谷沖)
 - 7月9日(日) Shonan Race
秋谷沖スタート→江の島沖マーク往復
 - 8月5日(土) 第16回静岡県知事杯石廊崎レース
 - 8月6日(日) Trans - Sagami Yacht Race 2023
 - 8月13日(日) Shonan Race
上下コース2レース(秋谷沖)
 - 9月10日(日) Shonan Race
秋谷沖スタート→相模3号ブイ往復
 - 10月8日(日) 若大将カップ
 - 10月15日(日) Shonan Race
上下コース2レース(秋谷沖)
 - 11月12日(日) Shonan Race
秋谷沖スタート→南西沖ブイ往復
 - 11月19日(日) ハギマスター2023
 - 12月10日(日) Shonan Race
上下コース1レース(秋谷沖)※表彰式
- ※日程やコースは都合により変更になることがあります。

お問い合わせ・参加申込
リビエラヨットレース事務局
tel.046-882-1286 / fax.046-881-6120
三浦市三崎町小網代1286
E-mail : yachtrace@riviera.co.jp

ヨットレースでも環境配慮 クリーンレガッタへのお誘い

リビエラリゾートでは、毎年クルーザーヨットレースを開催。夏の恒例Trans-Sagami Yacht Race、秋のRiviera Yacht Race「若大将カップ」、毎月1回のレースで年間を通して成績を競うShonan Raceがあります。



Shonan Raceはレーサーから初心者まで誰でも参加できるようにクラス分けをしており、月によって変わるレースコースの楽しみ方や、季節ごとの海を感じる楽しさがあります。春は沿岸の山桜を眺め、夏は熱い日差しを感じ、秋は爽やかな潮風を受け、冬は澄み切った景色を楽しむことができます。また、毎月海面で会うレース仲間と当日の成績を競うのも楽しみのひとつ。2022年は延べ70艇が参加し、12月には3年ぶりに表彰式を開催いたしました。

2023年のShonan Raceは、海洋自然環境に配慮したレースを目指すSailors for the Seaの「クリーンレガッタプログラム」に登録しました。これには、America's Cupを筆頭に、世界中のセーリングイベントが参加しています。

6月11日は、海洋自然環境に取り組む「LOVE OCEAN Clean Regatta 2023」をコラボ企画で初開催します。

アジア初のブルーフラッグ取得マリーナ「リビエラ逗子マリーナ」を運営するリビエラだからこそ、みなさまと一緒に、環境にも配慮しながら意義あるレースを行ってまいります。初心者でも、年の途中からでも参加できますので、気軽に楽しい毎月のレースにぜひご参加ください。



5/13(日) - 6/18(日)

第4回 Love Ocean

海を愛する人たちと
美しく豊かな海を守る

海から考える、サステナブルなまちづくり

海のためにできることを、海を愛する人たちと一緒に！
相模湾に面する神奈川全域13市町で、知恵を出し合い協力し合い、手を携えて

神奈川全域13市町で
ビーチクリーン駅伝

リビエラ湘南 ビーチクリーン

5/13[土] 5/14[日]
5/20[土] 5/21[日]

サイクリング・ランニングでの参加者、大募集！

6/11[日]

ラブオーシャン クリーンレガッタ 2023

海洋自然環境を発信する
クルーザーヨットレース

秋谷沖 上下コース2レース

6/18[日]

海の シンポジウム

海から考える未来
海に思いをはせ、楽しく語ろう

同時開催：リビエラマルシェ
会場：リビエラ逗子マリーナ

 **リビエラ未来づくりプロジェクト**
RIVIERA SUSTAINABILITY PROJECTS

主催：NPO法人リビエラ未来創りプロジェクト
共催：株式会社リビエラリゾート／株式会社リビエラ東京／一般社団法人日本海洋アカデミー
後援：神奈川県／逗子市／鎌倉市／葉山町／三浦市／横須賀市／藤沢市／茅ヶ崎市／平塚市／大磯町／二宮町／小田原市／真鶴町／湯河原町／かながわ海岸美化財団(調整中)

海を愛する仲間を募集中！

参加方法・
集合場所・
お問合せは
こちら

 HP
 LINEメンバー登録

※イベントの最新情報はHPをご確認ください

THE 8 x JEFF KOONS EXHIBITION.
HIGH-END MODEL TEST DRIVE.

THE 8 x Jeff Koons Model 展示 BMW ハイエンドモデル試乗会

日本に1台しかない Jeff Koons Art car と最新のBMWの展示車を
最高のロケーションとお食事プレミアムな時間をご体験ください。

3/22 (WED)

リビエラ逗子マリーナ シースケイプ

①13:00~ ②15:00~

参加費無料

完全予約制

Jeff Koons
Model
展示

BMW
試乗会

お食事

ヴァイオリン
演奏
滝千春

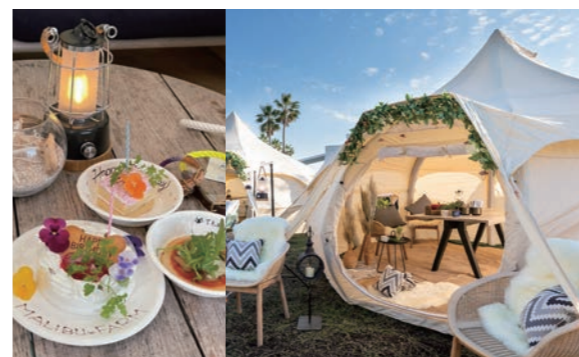


申込み締切
3/10 (金)

https://www.totobmw.com/shonan/2023/zushi_testdrive.html

TEL.050-3733-1468

【逗子】愛犬用お食事はじめました 3月26日まで MALIBU FARM カマクラテラス



個室感覚で暖房完備のアウトドアを満喫できる、大人気の冬季限定「カマクラテラス」は3月26日まで。お祝いやお集まりにぜひ急いで！“食べて健康に”がモットーの「HOT POT」が好評、愛犬家にうれしいDOG用お食事もスタート。

ご予約・お問合せ

マリブファーム
逗子マリーナ
TEL.0467-23-0087



【場所】マリブファーム 逗子マリーナ
【時間】ランチ(2部制)/11:00~、13:30~
ディナー/16:30~20:30(19:30 L.O.)
【金額】スモールサイズ/3,300円/2時間(税込)
ラージサイズ/5,500円/2時間(税込)
※飲食代は別途

ご予約・お問合せ

リビエラ東京
イベントデスク
TEL.03-3981-3233



【場所】リビエラ東京
(池袋駅C3出口から徒歩1分/立教大学前)
【時間】11:00~21:30
定休日:火曜日(祝日は営業)
【金額】プランにより変わるため、詳細はHPをご覧ください

【逗子】リビエラ逗子マリーナのジャズライブ SHONAN JAZZ BY THE SEA



3/4 (土) 山下洋輔
スペシャルカルテット

4/1 (土) 渡辺貞夫カルテット
2023

5/6 (土) 日野皓正

日本を代表する豪華なアーティストがリビエラ逗子マリーナで繰り広げる、大人が集うジャズライブも4月で11年目を迎えます。絶景のサンセットを眺めながら、アーティストと近距離で一体感のあるライブを味わえるのはリビエラならではの。

【お得な年間メンバー(2023年4月~1年間)】人数限定で募集中

3/4 (土) 山下洋輔スペシャルカルテット
4/1 (土) 渡辺貞夫カルテット2023
5/6 (土) 日野皓正

【場所】リビエラ逗子マリーナ
【時間】開場/17:00 開演/18:00

参加者限定の当日ライブ前のディナー好評受付中
【TEL】0467-23-0087 (マリブファーム 逗子マリーナ)

販売・お問合せ

湘南ビーチFM
TEL.046-870-3313



販売・お問合せ

レストランテAO
逗子マリーナ
TEL.0467-25-0480



【場所】リビエラ逗子マリーナ
【時間】ランチ/11:30~15:30(14:00 L.O.)
ディナー/17:00~21:00(19:30 L.O.)
定休日:火曜日(祝日は営業)
【金額】ランチ/5,500円(税込・サービス料別)~
ディナー/14,300円(税込・サービス料別)~

【池袋】緑あふれる空間で集う リビエラ東京 同窓会 歓送迎会・お祝いプラン



コロナ禍を経験し、集うことの大切さをかみしめた3年間。同窓会・歓送迎会・長寿祝いなど、思い出話を花を咲かせませんか。緑あふれる開業73年のリビエラ東京は、個室からバンケットまで大小12の会場を備え、2名~150名に対応可能。

【逗子】合格・卒業・入学・就職シーズン レストランテAO 逗子マリーナ 記念日プラン



これから迎える卒業や入学のお祝いには、メッセージプレートや記念写真、プレゼントもついてくるレストランテAOの「記念日プラン」がおすすめ。全席オーシャンビューの絶景レストランで、思い出に残る素敵な時間をお過ごしください。

2026年
創業
100周年2028年
L.A.五輪
ゴルフ競技
開催地

タイガー・ウッズが大会ホストを務める「ジェネシス・インビテーション」。「アーノルド・パーマー・インビテーション」や全米オープン選手権の前哨戦とされるジャック・ニコラス主催の「ザ・メモリアルトーナメント」と同等の格付、準メジャーの“招待試合”として高い注目を浴びています。

Genesis Invitational

at THE RIVIERA COUNTRY CLUB

2023. 2/16 Thu. ~ 19 Sun.

2023年2月16日(木)から19日(日)までの4日間、PGAツアー「ジェネシス・インビテーション」が今年もリビエラカントリークラブで開催されます。

2022年優勝者
ホアキン・ニーマン

TV観戦をお楽しみください。

TV放映スケジュールは、オフィシャルサイトに掲載します。



THE RIVIERA COUNTRY CLUB